

「権力は墮落する」

2017年06月05日

「権力は墮落する」と言われる。権力は魔性を孕んでいるからである。自らを肥大化し、強化を目論むことによって墮落していく。墮落した権力は国民の自由な言葉と尊い人権を奪い、権力に追従させる形を醸成する。

1930年代、天皇は天照大神の子孫であるとする神話に飲み込まれた軍部は、美濃部達吉博士の理性的な「立憲主義」に基づく法理論の「天皇機関説」を葬り去り、暴走を始めた。国が崩壊した1945年までに、二千数百万人の命が奪われ、物的損失も計り知れない。権力の墮落がもたらした悲劇であった。そこでは、事実即して見る視点を失い、情報を遮断し、虚偽を真実と言い張った。権力の墮落は対岸の火事ではない。国民の無為、無策には、必ず責任がかぶさってくる。

安倍晋三政権は諸々の法案を閣議決定し、衆参の法務委員会で、自ら決めた時間内で審議を打ち切り、強行採決し、衆参の本会議で決議していく。国民がどんなに反対の意思表示をしようとも、都合のいい理屈と理由をつけて、数の力で押し通し、法制化していく。報道にも圧力をかける。民主主義の形はなく、権力のファッショ的暴挙としか見えない。

安倍政権は社会的に強く、恵まれた人々を優遇する政策を取ってきた。金融緩和や年金資産の株式投資などによって、株価は上がり、大手企業は大きな利益を手中にした。金持ちはアベノミクスの恩恵を受けたであろう。安倍一強の中で、政策は捻じ曲げられてきた。子どもたちに「教育勅語」を暗誦させる超右翼的教育を目指した森友学園や、腹心の友が理事長を務める加計学園の学校新設に対しては、法外の便宜を図り、認可しようとした。安倍首相は圧力をかけたことはないと言うが、事実を隠蔽したい政府関係者の狼狽ぶりは、醜悪に見える。文科省の前川喜平前事務次官は、和泉洋人首相補佐官から「総理は言えないから私が言う」と聞いたと証言している。二人を証人喚問すれば、すぐに事実が解明できることではないか。更に、政府の意向に盾突く者を「悪者」と見なし、人格攻撃をもって葬り去ろうとする。公平を逸脱した行政の権力の横暴は見苦しいだけでなく、国民として恥ずかしい。前川氏の「そんな国とは思いたくない」という言葉が心に響く。

反面、生きることに困難を覚えている人々を顧みない。オール沖縄は身を挺して新基地反対を訴えているが、政権は意に介さず、基地建設を進めている。沖縄が受けてきた差別、抑圧の歴史を見る時、いたたまれない怒りに駆られる。福島原発事故の被災者たちの不安を顧みず、強引に帰還を促し、事故の収束を計っている。貧困女子、下流老人、6人に1人が満足に食事もできない子どもがいることに目をつぶっている。社会的弱者にどう向き合っているかが文化的バロメーターである。安倍政権下で、文化度は著しく低くなった。弱者を顧みない国は内部から腐敗し、虚無に駆られた事件は多発する。国を、家族を愛するなどという愛の強要は国が勧めることではない。生きていて良かったと思える時、自ずと国を愛し、家族の絆は確かになる。

「特定秘密保護法」「安保関連法」「共謀罪」の三点セットは国民に事実を知らせず、口を封じ、戦争に向かわせる法として作用する。貧富の格差と差別の構造が戦争を生み出していく。戦争へと押し出す状況はそろって来た。この安倍政権を作ったのは国民である。戦争中に、理性を失い、墮落した軍部の権力支配は国民に膨大な「ツケ」を支払わせた。安倍政権の「ツケ」も国民の上に降りかかってくるのは必定である。このまま、安倍政権を暴走させてはならない。